

令和8年度 定期作況報告

〈令和8年6月20日現在〉

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 道南農業試験場

1. 気象経過

5月下旬：平年と比較して、平均気温は0.5℃低く、最高気温は0.6℃低く、最低気温は0.7℃低かった。

降水量は29.5mmで平年の103%、日照時間は70.2時間で同103%だった。

6月上旬：平年と比較して、平均気温は0.7℃低く、最高気温は1.0℃低く、最低気温は平年並であった。

降水量は45.5mmで平年の119%、日照時間は56.1時間で同94%だった。

6月中旬：平年と比較して、平均気温は0.7℃高く、最高気温は1.9℃高く、最低気温は平年並であった。

降水量は6.0mmで平年の19%、日照時間は80.1時間で同159%だった。

以上、平年と比較して、平均気温、最高気温および最低気温は全て平年並であった。降水量は81.0mmで平年の82%、日照時間は206.4時間で同115%だった(表1)。

表1 気象表

調査項目	5月下旬			6月上旬			6月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(℃)	14.2	14.7	▲ 0.5	15.0	15.7	▲ 0.7	17.8	17.1	0.7	15.7	15.8	▲ 0.1
最高気温(℃)	19.4	20.0	▲ 0.6	19.8	20.8	▲ 1.0	23.7	21.8	1.9	21.0	20.8	0.2
最低気温(℃)	9.2	9.9	▲ 0.7	10.9	11.0	▲ 0.1	13.5	13.1	0.4	11.2	11.3	▲ 0.1
降水量 (mm)	29.5	28.7	0.8	45.5	38.3	7.2	6.0	31.9	▲ 25.9	81.0	98.9	▲ 17.9
日照時間(hr)	70.2	68.3	1.9	56.1	60.0	▲ 3.9	80.1	50.5	29.6	206.4	178.8	27.6

注1) 観測値は北斗市のアメダスデータによる。平年値は前10か年の平均値である。

注2) 比較の▲印は「低」または「少」を示す。

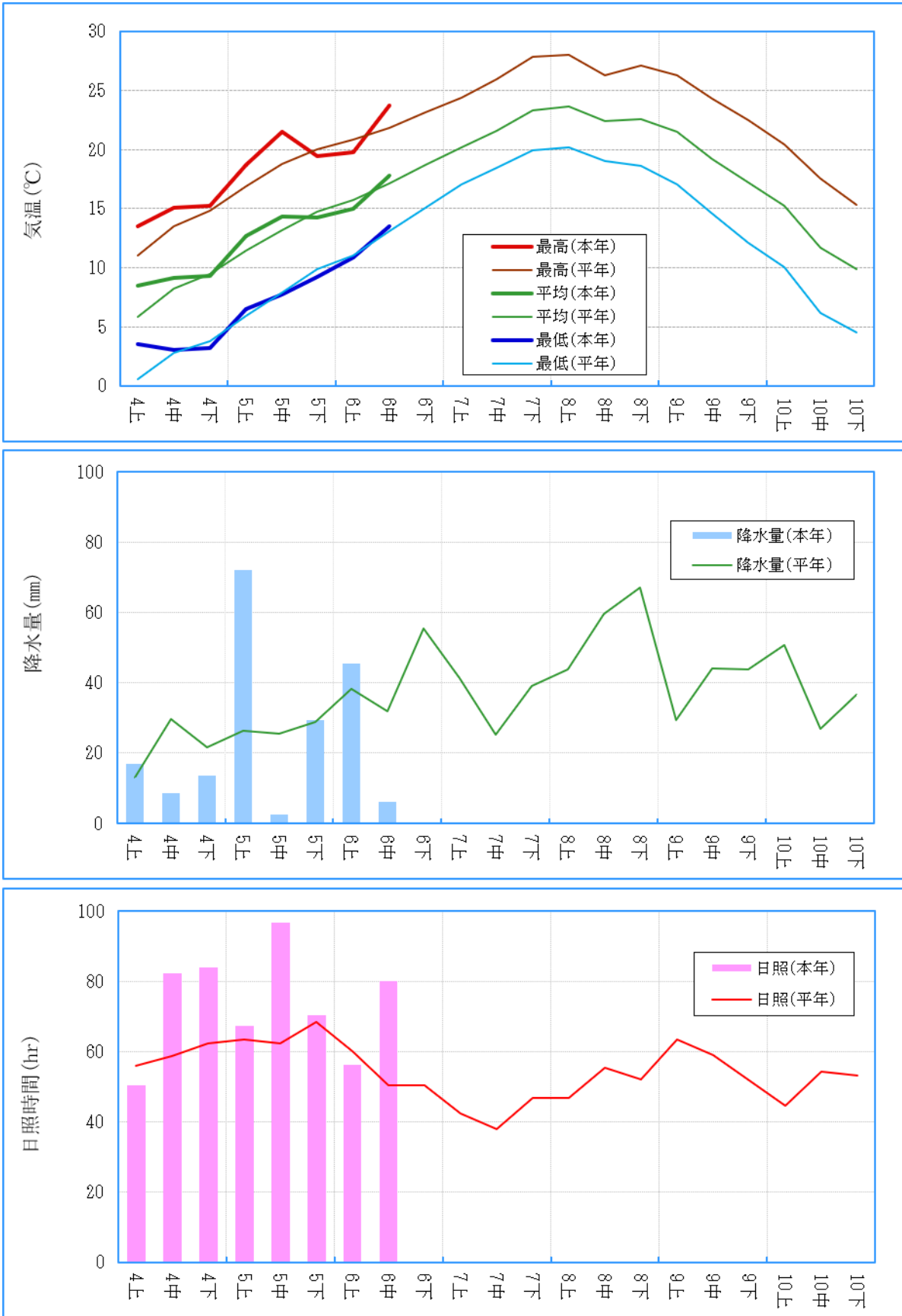


図1 気温、降水量及び日照時間の平年との比較(令和8年、北斗市)

2. 作況（水稲）

6月20日：やや不良

事由：5月下旬～6月上旬は低温で推移し、6月5日～10日の間は15℃以下の低温であったため、葉の黄化や生育の停滞が見られた。6月中旬は高温で多照に推移し、生育はやや回復したが、平年と比較して、草丈は2品種ともに低く、葉数は2品種ともに少なかった。茎数は「ふっくりんこ」では平年並であったが、「ななつぼし」は少なかった(表2)。

以上のことから、現在の作況は「やや不良」である。

5月20日：やや良

事由：播種は平年より1日遅い4月23日に行った。出芽までの日数は平年並で、出芽期は4月28日であった。育苗期間中、4月下旬は平年並の気温で多照、5月上旬は高温でやや多照、5月中旬は高温で多照であり、全体としてやや高温で多照であった。移植は平年並の5月20日に行った。移植時の苗の形質において、平年と比較して、草丈は2品種ともに長く、葉数は2品種ともに多く、茎数は2品種ともに多かった。地上部乾物重は2品種ともに平年を上回った。苗の充実度を表す地上部乾物重/草丈の値は「ふっくりんこ」は重く、「ななつぼし」は平年並であった(表2)。

以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

注)本作況は、道南農業試験場における平年値に対する水稲の生育良否に基づいたものであり、渡島・檜山を代表するものではありません。

表2 水稻の生育

項目	品種名 /年次	ふっくりんこ			ななつぼし			
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	
生育期節	播種期 (月日)	4.23	4.22	1	4.23	4.22	1	
	出芽期 (月日)	4.28	4.27	1	4.28	4.27	1	
	移植期 (月日)	5.20	5.20	0	5.20	5.20	0	
	幼穂形成期 (月日)		6.30			6.26		
	止葉期 (月日)		7.14			7.12		
	出穂期 (月日)		7.22			7.20		
	成熟期 (月日)		9.08			9.03		
	穂揃日数 (日)		5			5		
	登熟日数 (日)		48			45		
生育日数 (日)		139			133			
移植時	草丈 (cm)	15.9	14.6	1.3	15.3	14.5	0.8	
	葉数 (枚)	3.8	3.5	0.3	3.8	3.5	0.3	
	茎数 (本/個体)	1.90	1.45	0.45	1.27	1.11	0.16	
	地上部乾物重 (g/100本)	3.54	3.07	0.47	3.24	3.11	0.13	
	地上部乾物重/草丈	0.22	0.20	0.02	0.21	0.21	0.00	
本田生育	草丈 (cm)	6月20日	31.7	34.1	▲ 2.4	32.5	35.3	▲ 2.8
		7月20日		84.3			86.9	
		8月20日		92.6			92.9	
	葉数 (枚)	6月20日	7.3	7.8	▲ 0.5	7.2	7.9	▲ 0.7
		7月20日		10.5			10.5	
		8月20日		10.5			10.5	
	止葉葉数 (枚)			10.5			10.5	
	茎数 (本/m ²)	6月20日	547	535	12	432	464	▲ 32
		7月20日		739			645	
	8月20日		689			620		
成熟期	稈長 (cm)		77.6			75.4		
	穂長 (cm)		16.8			17.1		
	穂数 (本/m ²)		683			613		
収量構成要素	一穂粒数 (粒)		48.5			52.3		
	m ² 当粒数 (×1000)		33.2			32.2		
	稔実歩合 (%)		94.2			95.7		
	m ² 当稔実粒数 (×1000)		31.3			30.8		
	同上平年比		100			100		
	登熟歩合 (%)		80.4			78.4		
	籾摺歩合 (%)		72.1			75.9		
	屑米重 (kg/a)		6.9			4.3		
	屑米歩合 (%)		10.9			6.7		
	精玄米千粒重 (g)		22.9			21.8		
収量	わら重 (kg/a)		62.0			61.1		
	精籾重 (kg/a)		78.9			79.7		
	精玄米重 (kg/a)		56.9			60.4		
	収量平年比 (%)		100			100		
	玄米検査等級 (等)		2上			1		

注1) 平年値は前7年間の令和4年(2022年、最豊年)、平成31年・令和元年(2019年、最凶年)を除く5年の平均値を用いた。

注2) 苗は中苗紙筒、栽植密度は25.3株/m² (33cm×12cm)、1株3本植え。

注3) 本田にはN、P₂O₅、K₂O成分をそれぞれ7.5、9.1、6.5(kg/10a)施用した。

注4) 篩目は1.90mmを使用し、精玄米重、千粒重とも水分15.0%に補正した。

注5) 登熟歩合は比重1.06の塩水で調査した。

注6) 比較の▲印は「減」または「早」を示す。